



特集

地域おこし協力隊

地域を変える新しい風

近年、多くの自治体で活動している地域おこし協力隊。

本市では現在、2人の方が移り住み、地域活性化に取り組んでいます。彼らの活動は、まだ始まったばかりです。これから一緒に活動していく方もいるかもしれません。

今月号では、地域おこし協力隊とはどういったものか、また、協力隊の活動などを紹介します。





大信はとても元気な地域です。
どこに行っても、皆さんが温かく迎えてくれます。

平成28年1月から活動中

大信地区

しょうじ ちか
庄司 千賀さん (20)

会津若松市出身

▷ブログ
「わたしの地域おこし」



▷Facebook
「白河市大信地区
地域おこし協力隊」



▲どこまでも続く田園風景は大石さんのお気に入り(東下野出島)

注目される地方暮らし

今、都市に住む人たちが、「都会を離れて地方で暮らしたい」「地域社会に貢献したい」「人とのつながりを大切にしていきたい」など様々な理由で、豊かな自然環境や歴史、文化などに恵まれた「地方」に注目しています。

自分の才能や能力をいかしながら、地域に斬新な視点で新しい風を吹かせる「地域おこし協力隊」が全国で活動しています。

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊とは、高齢化や人口減少が進む地域に、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらうことで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

平成28年3月現在、673自治体で2,625人の隊員が活動しています。隊員は自治体の委嘱を受け、概ね1年以上3年以下の期間、地域に居住し、地場商品の開発・P

R、農林業への従事、住民の生活支援など、地域の活性化を図ります。

任期終了後、隊員のうち約6割がその地域に定住、さらに、2割がその地で起業しています。

本市では現在、2人が大信・東地域で活動をしています。

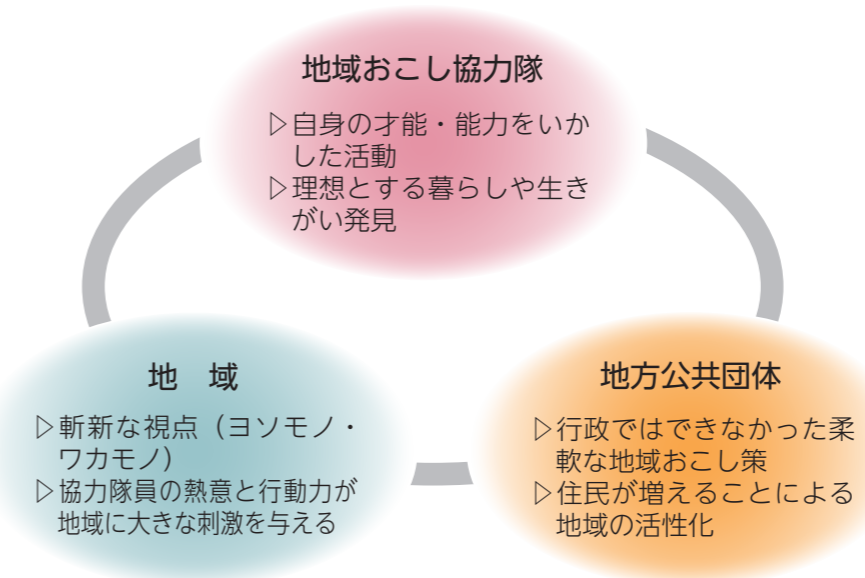
皆さんも一緒に地域おこし

協力隊の目線で見ると、私たちが当たり前と感じている日常に、地域の魅力が隠れているかもしれません。彼らは本市を少しでも良くしようと、そして、1日でも早く地域に溶け込もうと、日々活動しています。協力隊と地域の方が協力することによって、地域活性化の効果が何倍にもなります。まずは、協力隊とコミュニケーションを取り、様々なことを教えてあげてください。

今月号では、本市で活動している2人の地域おこし協力隊は、どんな人なのか、日々どんな活動をしているのかなどを紹介します。

地域おこし協力隊導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取り組み～



▲庄司さんが大信に来て初めて訪れた場所「薬師の清水(大信中新城)」

若者が地元へ愛着を持てるように

白河で働きたい

両親が昔、白河に住んでいたこともあり、話を聞き何度か訪れているうちに、交通の便がよく、自然豊かなこの地に住みたいと思うようになりました。白河での就職先を探していたのがきっかけで、地域おこし協力隊になりました。

特技をいかした活動

主に、地域を歩き、魅力を発掘し、ブログやFacebook、bookなどのSNSで情報発信をしています。ほかにも、自分のことや活動内容を多くの人に知ってもらうため、4月から月に1回、回覧文書「たいしんおこし!」を発行しています。

また、イベントのお手伝いのほか、デザインや絵を描く特技をいかし、大信のマスクットキャラクター「ひじりん」の名刺・ポストカードの作成や、「町屋の二本カヤ」の実を使用した商品ラベルのデ

デザインに携わりました。

地域のお祭りや大信こだま太鼓の活動にも、積極的に参加しています。そういった場は、私にとって多くの人と出会いは、地域の情報を知る貴重な機会にもなっています。大信地域に移り住んで約8か月が過ぎましたが、元氣のある地域だと感じました。どこに行っても、皆さんが温かく迎えてくれます。

昔話を絵本にしたい

今後は、大信地域の昔話を子どもたちに伝えるための絵本づくりや、たくさんある神社仏閣のマップも作製したいと考えています。そのほか、ひじりん館の直売所をさらに良くしていきたいです。

私は、若い人たちが大信に愛着を持ち、ふるさとで暮らしたいと思うようになるには、地元を知ることが重要だと考えています。そのためにも、魅力を発掘し増やすことに尽力していきたいです。



1. 庄司さんが背景を描いたひじりんのポストカード 2. 薬師山の入り口から見える風景はお気に入りの1つ 3. 行った場所を撮影し、SNSで情報発信(八幡神社)



地域おこし協力隊担当
企画政策課
主事 郷 千里

地域おこし協力隊は、国が地方への支援を補助「金」から補助「人」にした、画期的な制度であり、地域だけでは解決困難な課題や新たな事業の企画に対し、外部の知恵を借りて取り組むことを目指すものです。これは、一時的な「金」と異なり、地域に居住しながら継続的な活動を行う「人」による地域支援で、地域に新しい考えが取り入れられるきっかけになるとともに、よりその地域に根ざした新し

い事業を行うことにつながります。行き詰まった地域の手助けとなるのは、「若者・ばか者・よそ者」と言われています。「若者」とは、経験が浅いためにしがらみがなく、活動のためのエネルギーを持つ者です。「ばか者」とは、これまでの価値観にとらわれず、枠組みからはみ出すことのできる者。そして、「よそ者」とは、地域を客観視し、地域に埋もれている魅力を発見できる者

のことで。この制度は、このような「人」たちを地域に招き入れるものです。しかし、協力隊が地域おこしとして何をすべきかヒントを得て活躍するには、地域を理解すること、地域住民の声を聞くことが重要です。これには、市民の皆さんのご協力が必要です。協力隊の方と積極的に交流し、彼らの話を聞くとともに、自分たちの地域の良さや課題などを話していただけたらと思います。町内会や懇親会に、協力隊を誘っていたただけでも、十分な手助けになります。ぜひ、協力隊に気軽に声を掛けてください。それが、本市を良くするヒントになります。皆さんのご協力が、地域を変える新しい風を、より強くするかもしれません。

地域おこし協力隊に、気軽に声を掛けてください。それが、白河を良くするヒントになります。

ふふふカフェ

活動Report

活動内容や地域の魅力を紹介

7月8日、東京交通会館（東京都千代田区）で、「ふふふカフェ-Future From&For Fukushima Cafe-2016vol. 2」が行われました。

これは、全国的に協力隊員の確保が課題になっていることに対し、県内で活動している現役地域おこし協力隊・復興支援員が、これから地域おこし協力隊になろうとする人たちに、自分の活動や体験を話す交流会です。

当日は、本市で活動する地域おこし協力隊の2人も参加し、それぞれの活動内容や本市の魅力などを、参加者の皆さんに話しました。

会場には、20代から30代の若者を中心に約30人が訪れ、各市町村の特徴や取り組みなどに、熱心に耳を傾けていました。



1. 地域の魅力を語る大石さん 2. 自分で作成したチラシを使って活動を説明する庄司さん 3. 多くの参加者が訪れた会場

平成28年4月から活動中

東地区
おおし ひでとし
大石 秀敏 さん (63)
広島県出身 (前住所：東京都)

▷ ブログ
「故郷へ恩返し」



知り合った方の似顔絵を絵手紙にしています。触れ合う機会が増えて、良い効果になっています。

みんなで成功した達成感を味わっていききたい

アイデアの提供がしたい

長年、自分・家族・会社のために働いてきましたが、歳を重ねるごとに、故郷に恩返しをしたい、故郷だけでなく地方にアイデアの提供、地域再生をしたいと考えるようになりました。地域おこし協力隊は日本が最優先に取り組みべきプロジェクトだと思い、応募しました。

絵手紙で触れ合うきっかけを

主に、特産品や名人を見つける活動をしています。直接会って話を伺うほか、週に2回、直売所に行き、誰がどんな物を作っているのかをリスト化しています。そうすることで、品質や生産が安定した6次化商品ができるのではな

いかと期待しています。また、果樹栽培が盛んな東地域の特性をいかし、摘果した桃を有効活用できないかと考え、シロップ漬けやワイン煮などの商品開発を行っています。

ます。東地域に移り住んで約5ヶ月が過ぎましたが、看板や標識が少なく、森と田んぼの似たような風景が多いことが、今は非常に癒やしになっています。地域の人が早く知ってもらうために、知り合った方の似顔絵を絵手紙にしています。描いて渡しに行くことで、触れ合う機会が増えて、良い効果になっています。

地域に調和した仕事

9月から空き家のカフェを改修し、地域の人が気軽に集える拠点づくりに取り組みます。さらに、秋の収穫祭には、インバウンドとしてチュニジア人を招く予定です。

ハードルを小さくし成功を積み重ね、そして、みんなが成功した達成感を味わえるような活動をしていきたいです。そのためにも、昔からあったと感じるような、まわりと調和がとれている仕事をしていきたいです。



1. 東地域の方全員の絵手紙を描くことが目標 2. 地域の方とアドバイスをしあいながら良い関係を築いています 3. 直売所で販売されている野菜などをチェックする大石さん